

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	環境園芸学科	
科目名称	特別活動論 [Extra-curricular Activities]			実務経験教員担当	○	アクティブ ラーニング ○
科目コード	410910	授業形態	講義	単位数	2	配当学年 3年次
教員氏名	岩田 賢士			学位授与の方針との関連		DP 1 (1) (2) ・ 2 (1) ・ 3 (1) (4)
授業概要	特別活動は、各教科・専門科目の指導と異なり、教科外活動に位置づけられ、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事等の望ましい集団活動を通して、生徒が心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人間としての在り方生き方の醸成に教育の目標をおいている。また、高等学校（教科「農業」）教員として35年間（内11年間管理職）、特別支援学校教員1年間の中で培った教育経験を生かして、実践的な教育を展開する。本授業では、高等学校勤務35年間の中で実践した特別活動の経験を生かし、また、学生諸君が小中高校と体験した特別活動の思い出を活用しながら学習を進める。それらの学習を通して、特別活動の種類と内容、特別活動に関する指導方法等を学ぶ。さらに、特別活動の意義と重要性を理解し教員としての資質向上を図る。					
関連する科目	主に特別活動の領域が、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事から成るため、青年心理学・生徒指導&進路指導 教育概論・倫理学など幅広い科目の学習が必要である。					
授業の進め方と方法	<p>○一斉授業・・・各講義毎に授業資料を作成しそれを活用して授業を進め、必要に応じてディスカッションをする。</p> <p>○ワークショップ・・・課題を提示してグループ活動を行う。（グループ討議・発表・意見交換）講義内容を考えて、ワークショップを多く導入。発表には模造紙等も活用する。</p> <p>○視聴覚機器の利用・・・DVD・動画・スライドを活用する。映像から課題を提示し、グループ討議や感想文を書かせる。</p> <p>※今まで主に中・高校で経験した特別活動を念頭に置き、理論的な背景を一斉授業で学習し、特別活動を行う上で重要な課題についてはワークショップや視聴覚教材を活用して授業を進める。</p>					
授業計画	<p>I 特別活動の概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 特別活動とは：特別活動の内容と必要性について。 2 特別活動の概要：特別活動の法的位置付けと学習指導要領改訂について。 3 特別活動の目標：特別活動の目標について具体的に。 4 特別活動の教育課程上の位置付け：学習指導要領上における特別活動の変遷と教育的意義。 <p>II 学校行事</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 学校行事①：学校行事の具体的な一例を視聴、その行事の目的・意義を考える。 6 学校行事②：具体的な事例について検討した結果を発表・検証する。 7 学校行事③：学校行事の分類。 8 学校行事④：学校行事のまとめとファームステイ報告 <p>III 生徒会活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 9 生徒会活動①：生徒会の役割と活動内容 10 生徒会活動②：生徒会活動とは 11 生徒会活動③：生徒会活動と部活動 <p>IV ホームルーム活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 12 ホームルーム活動①：ホームルームの思い出と年間LHR 計画の検討 13 ホームルーム活動②：年間LHR 計画作成 14 ホームルーム活動③：年間LHR 計画の発表とホームルーム活動の種類。 <p>V まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 15 特別活動のまとめ：今までの学習を振り返る。KJ法の活用を考える。 					
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育基本法第1条（目的）を達成するために、学校教育の中で特別活動がどの様に位置付けされているかをしっかりと認識する。 ・高等学校の特別活動には、ホームルーム活動・生徒会活動・学校行事があり、その目標と学習内容を理解する。 ・ワークショップや発表の機会を通して、他者とのコミュニケーション能力や表現力の向上を図る。 ・これらの授業をホームルーム経営能力の一助とし、将来の教員としての指導力向上を図る。 <p>以上の様な目標を持ち、生徒に人間としての「在り方生き方」を享受できる学生を育成したい。</p>					
授業時間外の学修						
課題に対するフィードバック	<p>○毎回講義後にレポートを出し、提出させる。そのレポートを採点し、返還する。</p> <p>※レポートは、指定日までに必ず提出する。</p> <p>○テストを実施し、それを返還する。</p> <p>○提出レポートに教員への要望・質問欄を作り、そこに書かれていることに回答する</p> <p>○グループ学習においては、全体発表後、課題に関する解説を入れたり自己のコメントを入れる。</p> <p>○個人的な課題等については、時間外に個別対応する。</p> <p>※以上の様な取り組みのまとめとして、ポートフォリオを作成させる。</p>	評価方法・基準	<p>★この講義に関しては、4/5以上の出席をすること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平常点・・・授業中の態度など取組状況（20点） 2 レポート点・・・毎回提出レポートを提出（30点） 3 テスト点・・・テスト（50点：小テスト課題レポート・ポートフォリオを含む） <p>※場合によっては、期末テストをレポートに代えることがある。</p>			
テキスト	・各講義毎に講義資料を作成し、それを配付する。 ・学習指導要領解説					
参考書	「新しい時代の特別活動 個が生きる集団活動を想像する」相原次男ら ミネルヴァ書房 学習指導要領・学習指導要領解説					
備考	農業高校35年間勤務（教諭時代にホームルーム担任・部活動顧問、管理職として教頭・校長経験）。特別支援学校1年間勤務。宮崎県高体連ラグビー専門部長3年間担当。全国高等学校家庭科部会理事。宮崎県社会教育委員					